日本同盟基督教団「教会と国家」委員会主催

2016年8・15平和祈祷会

国のものか、キリストのものか

～戦争と社会儀礼・教会が克服すべき宿題～

2016年8月13日（土）

10：30～12：30

戦争を遂行する国では、社会全体が戦争に動員されるだけでなく、その国に生きる教会もまた、国策に、戦争に動員されました。７１年前に生きた日本の教会は、その典型的実例でした。兵士として国に命をささげることが神に従う道だと若者に教え、勝戦祈祷会を開き、忠国礼拝を開き、神社参拝を行った。主の御名によってささげる礼拝が、国歌斉唱で始まり、宮城遥拝が続き、讃美歌は軍歌のように変わった。そして占領下のアジアにある諸教会に対して日本の戦争に協力することこそが神の国の建設に適うことだと説得した。これら教会が戦争遂行に利用（活用）される実例は戦時下の日本の教会のみならず、戦後もまた戦争を進める国の中の教会において同様に起こっています。

戦争遂行は総動員（総活躍）を必要とすること。この勢いは津波のように教会をも飲み込みます。その時、教会は地中深く、どこに土台を据えているかが問われます。憲法改定は、教会の外の社会問題？とんでもない、今、教会が教会であることが問われているのです。

ほしで　たくや

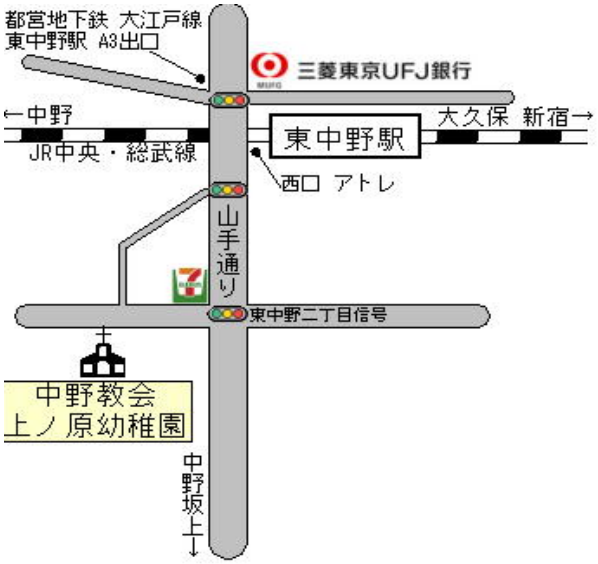
講師　星出卓也　師

日本長老教会　西武柳沢キリスト教会牧師
日本長老教会社会委員会委員長、日本福音同盟(JEA)
社会委員会委員、日本キリスト教協議会(NCC)靖国
神社問題委員会委員、キリスト者学生会(KGK)理事長

会場　中野教会

東京都中野区東中野2-21-7 (☎:03-3365-1907)

JR東中野駅西口、または、都営地下鉄大江戸線
東中野駅 A2出口より徒歩5分



当日は、席上献金があります。

お問い合わせは090-6191-1761 (横浜上野町教会 柴田)
まで